

「色彩についての講座」

土屋 政夫

会報の紙面をお借りして講座を開きます。絵画を構成している大きな柱は「形」「色」そして「マチエール」と考えます。

この講座は「色彩について」です。

■色彩の基本

■配色について

■混色について

これらを何回かに分けて記述してまいります。

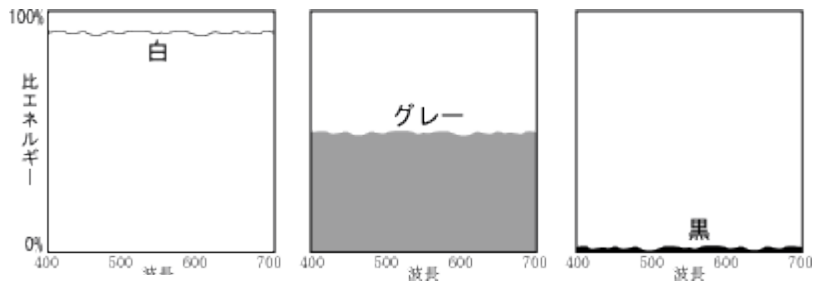
第一回 ■色彩の基本《可視光線》

色彩は光によってもたらされますので、光についての説明です。太陽から届く光は電磁波で、その中で目に見える領域を可視光線といいます。可視光線の波長はだまかに400nm(700nm(ナノメートル)の範囲です。通常太陽光から色は感ぜず、白色光です。光に色があるとはつきり認識できるのは、プリズムを通った光が虹色のスペクトルとなった時です。

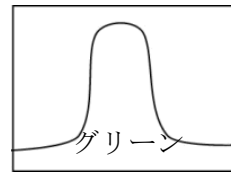


波長毎に屈折率が異なり、波長別に光を取り出すことで色彩となる。

白色光から色を感じないのは全波長域の比エネルギーが同じだからです。全体が強ければ明るく白になり、弱ければ、暗く灰色や黒になります。色彩を作り出すには波長毎のエネルギー



「波長全体の変化は明度だけの变化で無彩色」
全体のエネルギーが強いと白に、中間はグレーに
殆ど無い場合は黒になる(光源色、反射色 同様)



ギーのバランスを崩すことです。例えば右下図の様に500~600nmの比エネルギーが強いものはグリーンになります。これで色彩(有彩色)になりました。可視光線の一部を取り出すのが絵の具の役目です。
可視光線の項で最後に付け加えたいことがあります。色温度です。前述で白色光と言いましたがこれは昼光色のことです。朝夕の光は色温度が低く赤く、曇天や晴天光は高く青い色です。ローソクの光や白熱電球の色温度は低く、一般的な蛍光灯やハロゲンランプは高くなります。通常は、色温度の色の变化を人間の目は自動補正してしまします。絵を描く者にとって、これらは重要で無視す

べきではありません。目が補正した色調で描かず、意識して画面全体を青くしたり赤くしたりすることで雰囲気を作り上げられます。特に風景画のシャドウ部は色温度の違いによる反射光線の影響が大きいと認識しています。

次回第二回は■色彩の基本《三原色》についてお話しします。

支部長のバトンを受けて

埼玉西支部長 高木 登

埼玉西支部を長い間、情熱をもってリードしてきた千木良宣行支部長から今年1月にバトンタッチを受けました。支部長交代の話があったときは驚き、いろいろ考え悩みましたが支部の役にたつことであればと思ひ引き受けることにしました。

支部長を引き受け3ヶ月が過ぎましたが、千木良宣行前支部長や小高峯夫委員、岡田三郎委員からも指導をいただきながら39回目の支部展の準備を現在進めているところです。

私はこれまで小学校の教員として42年間、児童の指導や図工美術教育、管理職になってからは学校の管理・運営にかかわる仕事を中心に生きてきました。退職する数年前に川越市立美術館で新日美埼玉西支部展を見て、会の雰囲気にも熱いものを感じ、一緒に勉強しようと思ひ入会しました。これが西支部との出会いの始まりでした。

退職後は5年ほど小学校の新採用教員育成の仕事をしてきましたが、昨年からは美容専門学校で美術担当としてヘアデッサンやフアッションの授業を担当しています。

埼玉西支部は勉強会とスケッチ会と月に2回の活動日があります。勉強会は午前中が作品合評会、午後は主にプロモデルのデッサン等です。



会員相互による作品合評会



スケッチ会は今年の1月は秩父、2月は妙義、3月は川越を描くなどを実施してきました。
また、昨年からブログを始めまして、勉強会やスケッチ会で描いた自分の作品を随時更新していこうと思っています。ブログ名は「NOBO Sketch 水彩画 Gallery」です。新日美ホームページの会員リンクのページからも入っていただけます。
支部長としての活動は始まったばかりですが、埼玉西支部の更なる発展のために微力ながら努力したいと思っています。